



東京都へ国民健康保険税の値上げ許さず値下げを求める要請。要請書を都に手渡す宮坂議員。(2022年12月16日)



改憲発議許さない! 憲法集会に参加。1列目中央が宮坂議員。(22年5月3日)

暮らし・平和を守る政治へ

大軍拡・大増税は許しません

4期
16年

みなさんと
かかわらせて
願い実現に全力

●学校給食費を無料に
●難聴者に補聴器助成へ

- 調布・狛江に保健所を復活
- 年金で入居できる特養の増設
- 18才までの医療費完全無料化
- 気候危機打開、ジェンダー平等
- 30人学級実現・教職員の増員
- パートナーシップ制度導入
- 国保税、介護保険料の負担軽減
- 市民参加で中央図書館を充実

みやさか よしこ

日本共産党 市議会議員 **宮坂良子**

HPIはこちら▼



宮坂良子さんの活躍に期待します

矢野 ゆたか
(元狛江市長)



社会的弱い立場の人に寄り添ってきたのが宮坂議員です。国が介護や国保などの社会保障を後退させる中で、市政が「市民生活の防波堤」となるよう、負担料の軽減、サービスの充実を求めてきました。「人に優しい狛江」へ活躍を心から期待しています。

山添 拓
(参議院議員)



田岡 恭子
(元市議会議員)



藤島 勲
(狛江団地自治会事務局長)



会田勇 (元会社役員・西野川) 重森孝子 (絵手紙講師・和泉本町) 田部谷道子 (西野川)
野口祥子 (ひめじら塾・和泉本町) 箕浦康子 (俳優・和泉本町) 棕本セツヨ (和泉本町)

お困りごとや市政へのご要望などお気軽にお寄せください。

宮坂良子の
「なんでも相談」

- 毎月第2土曜 午前10時～12時
- 会場：宮坂良子事務所(狛江市和泉本町4-1-10-105)

連絡先 自宅☎:5497-2828 ✉:yoshiko.1228@docomo.ne.jp

民報こまえ

2023年3・4月号外 日本共産党狛江市員会は見解を発表しました。
発行/狛江民報社 連絡先/狛江市岩戸北1-10-6甲武ビル103 田岡恭子

介護・福祉・子育て支援

— 市民とともに市政を動かす 宮坂良子

補聴器助成求める 保険料・利用料の軽減

高齢になっても安心して暮らしていけるようにと、介護・福祉の充実を求めてきました。「保険料が高すぎて大変」という声を受け、低所得者への保険料を軽減することができました。補聴器購入費への助成と聴力検査、調整を行なうよう求め続けています。



シルバー相談室を提案し、「こまほっと相談室」が実現。今では、訪問での安否確認や相談で、住民から頼りにされ、なくてはならない拠点となっています。

八幡通り、御台橋通りT字路に歩道拡幅が実現

「危険な道路、改善して」との要望が出され、議会で何回も取り上げてきました。22年緑野小学校の通学路でもある八幡通りと御台橋通りのT字路の歩道の拡幅が実現しました。これで、対策が必要な危険4か所中2か所が実現。引続き安全対策を要望していきます。



歩道拡幅前



拡幅後

給食の無償化を要望 就学援助の拡大・国保均等割軽減が実現

学校給食の無償化を要望し、実現にむけががんばっています。

小・中学生の子どもたちが、お金の心配をしないで学校で学び、平等に教育が受けられるために就学援助の制度があります。対象の拡大を求め続け、生活保護基準の1.2倍から、1.4倍に拡大することができました。

国民健康保険税は、「子どもの均等割をなくして」の切実な声を受け、議会で求めてきました。第3子以降の無料が実現しました。



都へ保健所復活を要請

新型コロナウイルス感染から命と暮らしを守るために検査の拡充、対策を求め、自宅療養者へパルスオキシメーター、食料支援が実現しました。

東京都福祉保健局へ調布・狛江に保健所の復活を何度も要請してきました。実現に向け引き続き求めていきます。



「調布・狛江保健所復活を」と都の福祉保健局へ要請

安心して暮らせる市政
子育ても仕事も老後

コロナ禍の中、物価高騰がとまりません。私は「切実な願いに少しでも応えたい」とこの思いで「生活なんでも相談」を毎月とりくみ、介護・福祉・子育ての充実を求めてきました。岸田政権は大軍拡、大增税をねらっています。私はイラク戦争の時、不安がる子どもに「お母さんは戦争なんか絶対させないから」と子どもに誓いました。この思いで憲法9条守り、子育ても、仕事も老後も安心して暮らせる市政をめざし全力でがんばります。

日本共産党 市議会議員
宮坂良子

プロフィール

1950年新潟県生まれ。2007年市議初当選4期目。渋谷代官山郵便局勤務。新日本婦人の会中央委員、狛江4小・3中PTA学級委員、市議会副議長、総務文教副委員長歴任。現在社会常任委員会副委員長。市議団・団長。家族は夫と長女。

宮坂良子さんの歩んだ道

ふるさとは 雪深い新潟上越市

新潟県高田市（現上越市）で、3人姉妹の長女として生まれた宮坂良子さん（向かって左）。専業主婦だった母写真から「これからは女性も自立する時代」と教えられ育ちました。

中学校時代は、バスケット部に入



部。人一倍練習に励みレギュラーとして地区大会で3位に入賞しました。

ベトナムの戦火に心痛め

高校卒業後、上京し郵便局に就職。当時、沖縄はアメリカの占領下にあり、戦闘が続くベトナム戦争の出撃基地になっていました。日本共産党の演説会で、おおもとは日米安保条約があること、共産党が一貫して戦争に反対してきたことを

知り、「平和な社会をつくりたい」と共産党に入りました。その後、2人の子育てと義父の介護をしながら、女性団体の役員として子育て支援や消費者問題、平和を守る草の根の運動をすすめてきました。

「ありがとう」の言葉を心のささえに

2007年狛江市議として介護、福祉、子育てなどの充実を求めてきました。

初めての議会質問を傍聴してくれた女性が「困っている私たちの気持ちを話してくれてありがとう」と、涙を流して下さったことが、「今でも私の心の支えになっています。引き続き全力でがんばる決意です」という宮坂良子さん。



宮坂良子 12番